

# フィールドスタディー(高麗郡誕生1300年を考える)

平成28年度大東文化大学春期オープンカレッジ(東松山キャンパス)

## 高麗郡誕生1300年を考える ～渡来人の足跡を訪ねる小さな旅～

### <フィールドスタディー>

引率講師：宮瀧 交二 先生(講座講師)

☆日時	平成28年6月21日(火) ※雨天決行
》集合場所	◎第一集合地 東松山キャンパス・管理棟前駐車場9:00集合 ◎第二集合地 東上線高坂駅西口朝日興産前9:10集合 ※フィールドスタディーの参加・不参加、及び集合地を6月14日(火)までにご提出ください。 (当日不参加になった場合は必ずセンターにご連絡ください。)
》日程(予定)	9:00東松山キャンパス出発→9:10高坂駅出発→高麗神社→(休憩・昼食厚木PA)→高来神社→紫野市立桜土手古墳展示館→(休憩狭山SA)→高坂駅→大東文化大学東松山キャンパス(解散) ※道路状況ほかにより到着時間が予定時間通り行かない場合があります。予めご了承ください。 ※厚木PAには食堂がありますが収容人数が少ないため、なるべくお弁当をご持参ください。
》同行	加藤 たづる、飯田 智子(地域連携センター)
》観光バス	東栄自動車

## 高麗神社

日韓国交正常化40周年記念として造立された長丞(天下大將軍と地下女將軍像)



「続日本紀」に記されている、霊亀2年(716)、甲斐、駿河、相模、上総、下総、常陸、下野7国中の高句麗人1799人を武蔵国に移して高麗郡を設置したという内容の石碑が立っている



乙未徙五道下高麗  
若光賜王姓

續日本紀卷三 大室三年四月乙未

辛卯以駿河甲斐  
相摸上總下總

常陸下野七國高麗  
人千七百九十九人  
遷于武藏國始置  
言麗郡焉

續日本紀卷三 大室三年四月乙未

高麗郡建郡1300年記念事業に関する情報があちこちに見える



# 高麗郡一三〇〇年祭

## 〜高麗郡百花繚乱〜

平成二十八年は高麗郡建郡一三〇〇年です。

御祭神 高麗王若光（こまのこきしじゃっこう）を始め、先人達が託した地域社会、子ども達の繁栄という思いを私たちが未来へと繋いで行く番です。高麗神社では、高麗郡一三〇〇年〜高麗郡百花繚乱〜と題し、様々な行事を行ってまいります。

大神様のもとに訪れる多くの方が、神社に花咲く歴史・伝統・文化・芸術に触れ、先人達が残した礎を胸に、高麗郡一三〇〇年の佳節を共に祝祭できることを願います。



西暦658年まで中国北東部から朝鮮半島にかけて栄えた高麗、高句麗（高麗）、多くの高麗人たちが日本へ渡来し、優れた技術や文化を日本に伝えた。



『続日本紀』には聖徳太子5月16日（西暦716年）開東十国（駿河、甲斐、相模、上総、下総、常陸、下野）に定住していた高麗人1799人を武蔵国に集め、高麗郡が建郡されたことが記されています。

西暦658年に高句麗から日本へ渡来した王族、高麗王若光は、大和朝廷の官人として武蔵国へ赴任し、高麗郡の初代郡長となり、未開の地を高麗郡民と共に切り開きました。



前方は社殿



この先には「高麗家住宅(重要文化財)」もある



古代高麗郡と高麗神社についての説明坂



## 고대 고마(高麗) 군과 고마(高麗) 신사

히다카(日高)시가 중심이었다고 생각되는 고마(高麗)군의 기원은 속일본기(続日本紀)에 따르면 「靈龜2년(716년)5월, 스루가(蘇我, 지금의 시즈오카), 기이(紀伊, 지금의 아마나시), 시가미(相模, 지금의 가나가와), 시모쓰케(下野, 지금의 도치기), 가즈사(上総, 지금의 지바), 시모후사(下関, 지금의 지바·이바라기), 히다찌(常陸, 지금의 이바라기) 등의 7개 지방에 살던 고구려인 1,799명을 무사시(武蔵) 지방으로 이주시켜 고마군을 설치하였다.」라고 기록되어 있습니다.

이때, 고마군의 수장이었을 것이라고 생각되는 본이, 고마신사의 제신(祭神)으로서 고구려에서 도래한 고마왕(高麗王) 악광(若光)이 있습니다.

이 후손들이 대대로 고마신사의 궁사(宮司)로 봉직하고, 고마씨 족보에 의하면 「악광이 죽자 군민들은 그의 위역을 기리기 위해 여전(御殿)의 뒷산에 사당을 세우고 신령을 재시지내면서 고마명신(高麗明神)이라고 칭하였다.」라고 적혀있어, 고마신사의 창건을 전해주고 있습니다.

히다카 시대에는 8세기 전반 이후의 주거지 터와 오나가게(女形) 절터, 오-데라(大寺) 절터, 그리고 성천원의 전신으로 보이는 다키오카(高岡) 절터 등의 옛날 절터와 스에(須恵) 자기 가마터 등들은, 고마군 시절 이래의 다수의 유적지로서 당시 고대 고마군의 영화를 엿볼 수 있게 해줍니다.

고마 신사에는 12세기(기마쿠라 시대)의 「대반이경나밀다경(大般重(羅)多經)」: 국가 지정 중요 문화재」를 비롯 고마신사 본전(현지정 문화재), 도쿠가와 장군이 영지(領地)를 기부한다는 서장(徳川将軍私領寄進状: 시 지정 문화재)의 유형 문화재 외에 10월 19일의 축제에는 우지코(氏子) 같은 씨족 신을 모시는 일족)에 의해 봉납되는 사자춤(시지정문화재)도 전해져 오고 있습니다. 또 고마씨(高麗氏) 소장의 문화재로서 17세기에 건축되었다고 보는 고마가 주력(국가 지정 중요 문화재), 고마씨 족보(시 지정 문화재)가 있습니다.

2002년 5월

히다카시

## 古代高麗郡と高麗神社

日高市を中心を置いたと考えられる高麗郡の始まりについて、続日本紀に「靈龜2年(716)5月、甲斐、駿河、相模、上総、下総、常陸、下野7ヶ国から高句麗人1,799人を武蔵国に移し、高麗郡を創建した」と記されています。この時、高麗郡の長となったと考えられているのが高麗神社の祭神で、高句麗からの渡来人であった高麗王若光でした。その後裔で、代々高麗神社の宮司を務める高麗氏系図には「若光が没すると郡民はその威徳を慕え、御殿の後山に宮廟を建て神霊を祀り高麗明神と称した」と当社創建を伝えています。

日高市内には8世紀前半以降の集落跡や女影廃寺、大寺廃寺、聖天院の前身と考えられている高岡廃寺などの古代寺院跡や須恵器の窯跡といった高麗郡建郡以降の遺跡が数多く所在し、古代高麗郡の栄華を窺い知る事ができます。

高麗神社には12世紀(鎌倉時代)の「大般若経羅密多経」(国指定重要文化財)をはじめ、高麗神社本殿(県指定文化財)、徳川将軍家社領寄進状(市指定文化財)といった有形文化財のほか、10月19日の例大祭に氏子によって奉納される獅子舞(市指定文化財)も伝えられています。また、高麗氏所蔵の文化財として17世紀の建築といわれる高麗家住宅(国指定重要文化財)、高麗氏系図(市指定文化財)があります。

平成14年5月

日高市

さて、正面が神門



神門を潜ると最近新しく増築された外拝殿がある/この奥に元々の拝殿(伊東忠太設計)があり、更にその奥に本殿(同)がある



これが本殿/右横から見たところ/左手が拝殿



高来神社  
たかく

さて、正面の山が大磯町に所在する高麗山(こまやま)



高麗山/高句麗が滅亡後、日本に滞在していた高句麗王一族の若光が日本に亡命し、一族を引き連れてこの辺りに上陸したという



ここが高麗山南麓にある高来神社/元の名を「高麗神社、高麗権現社」と言い、創建は神功皇后の三韓征伐(新羅出兵)に勝利した際に、重臣の 武内宿禰が高麗大神和光を奉ったのが高麗権現社の起源と言われるらしい



一の鳥居



二の鳥居/右の社殿は慶覚院(高麗寺の寺宝が安置されているという)



# 大磯町観光案内図



参道を登っていく



これはお約束の再利用材置き場



更に進む



前方が高来神社の社殿



高麗神社が明治の神仏分離まで高麗寺(こうらいじ)として存続したのだが、その旧観音堂だったらしい



明治以降は高来神社として存続している



右手は神輿殿



右前方から見た社殿/説明坂が立っている



# 高来神社 (高麗寺) 略縁起

古代 大韓の東に發する高麗山は昔より神宿る山として住民から信仰されて来ました。神功皇后が三韓を討つた後に、高麗山の上に神皇產靈神、高麗大神和光(高麗権理)を遷し祀り天下の平和をお祈りされました。後に理璋將軍、忠神天皇、神功皇后が併せ祀られました。この高麗権理は箱根神社並び伊豆山神社に遷祀されております。若光親来 天智七年(六六八)高句麗国が滅亡するや高句麗の王族若光は大韓の高麗に渡来して大陸文化を伝えました。靈龜二年(七一六)大韓を初め各地に渡来した高句麗人が若光を都長として武蔵国高麗郡に移され開苑を命ぜられました。

高麗寺の創建 養老元年(七一七)僧行基がこの地を尋ね大韓の解々崎の高中よりお上りになった千手観音菩薩を拝し本地佛と定められ高麗寺を創建されました。かくして神仏習合の聖地となり鶴足山高麗寺を別当寺とし長く信仰されて来りました。

中世 鎌倉時代は幕府の厚い信仰を受け相模の大寺に列せられ境内に二十四僧坊が置かれましたが、室町時代には高麗山は要害の地として甚なる戦いの被害を受け白山社・毘沙門三重塔など多くの伽藍、寺宝が焼失されました。

江戸期 天正十九年(一五九一)徳川幕府から御朱印地として寺領百石と山林を与えられ、寛永十一年(一六三四)東照権現(徳川家康)が勧請されました。そして天海僧上より寺十三条掟書を授かりました。参勤交代の殿様もお駕籠から降りて高麗寺の大鳥居の前で深々とお辞儀をして毛櫛を下げて寺領内を静かに通り、領民の土下座はなかつたと伝えられます。

近代 明治の世となり神仏分離の政策により高麗寺は廃寺となり、明治三十年に高来神社と改称されました。現在旧観音本堂(下社)に遷座されております。千手観音菩薩を始めとする寺物は現慶覚院に安置されました。高来神社は古来より高麗、大韓の鎮守神として地域住民の平和と安全を御守護されております。

祭神 神皇產靈神、瓊瓊杵尊、応神天皇、神功皇后、

祭礼 春季例祭 家康の命日、山神輿の遊御外  
(大磯町郷民文化財) 四月  
夏季例大祭 御船祭 廻ヶ崎海岸の神事奉行  
(大磯町郷民文化財) 七月

## 高麗寺領境内見取り図



高麗山山神輿(古時より高麗山頂上の土家まで渡御)



御船祭 (7月)



女神像 高さ 八六・七センチ 高来神社 神寶



高麗寺本社の御祭りのとらふよ(昭和25年に撮影されたもの、昭和10年撮影)

アップで見る/大磯にいた高句麗人も武蔵国高麗郡に移されたと記されている

# 高来神社 (高麗寺) 略縁起

古代 大磯の東に聳える高麗山は昔より神宿る山として住民から信仰されて来ました。

創始 神功皇后が三韓を討つた後に、高麗山の上に神皇産靈神・高麗大神和光(高麗権現)を遷し祀り天下の平和をお祈りされました。後に瓊瓊杵尊・応神天皇・神功皇后が併せ祀られました。この高麗権現は箱根神社並び伊豆山神社に遷祀されております。

若光渡来 天智七年(六六八)高句麗国が滅亡するや高句麗の王族若光は大磯の高麗に渡来して大陸文化を伝えました。霊龜二年(七一六)大磯を初め各地に渡来した高句麗人が若光を郡長として武蔵国高麗郡に移され開発を命ぜられました。

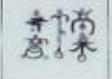
高麗寺の創建 養老元年(七一七)僧行基がこの地を尋ね大磯の照ヶ崎の海中よりお上りになった千手観音菩薩を拝し本地佛と定められ高麗寺を創建されました。かくして神仏習合の聖地となり鷄足山高麗寺を別当寺とし長く信仰されて来ました。

中世 鎌倉時代は幕府の厚い信仰を受け相模の大寺社に列せられ境内に二十四僧坊が置かれましたが。室町時代には高麗山は要害の地として重なる戦いの被害を受け白山社・毘沙門三重塔など多くの伽藍、寺宝が焼失されました。

江戸期 天正十九年(一五九一)徳川幕府から御朱印地として寺領百石と山林を与えられ、寛永十一年(一六三四)東照権現(徳川家康)が勧請されました。そして天海僧上より寺十三条掟書を授かりました。参勤交代の殿様もお駕籠から降りて高麗寺の大鳥居の前で深々とお辞儀をして毛槍を下げて寺領内を静かに通り、領民の土下座はなかつたと伝えられます。

近代 明治の世となり神仏分離の政策により高麗寺は廃寺となり、明治三十年に高来神社と改称されました。現在旧観音本堂(下社)に遷座されています。千手観音菩薩を始めとする寺物は現慶覚院に安置されました。高来神社は古来より高麗、大磯の鎮守神として地域住民の平和と安全を御守護されています。

祭神 神皇産靈神、瓊瓊杵尊、応神天皇、神功皇后、



男神像

高麗寺の境内見取り図/左手に旧観音堂(現高来神社)が見える



社殿の裏側に進んでみよう



ここは高麗山山頂への登山口となっている



これは高麗寺の境内見取り図にもある平嘉久社という小さな祠





秦野市立桜土手古墳展示館

正面が秦野市立桜土手古墳展示館





館内



桜土手古墳群は6世紀末から8世紀初頭に造られた円墳で構成されている

はだのししていしせき  
秦野市指定史跡

さくらとてこふんぐん  
桜土手古墳群

桜土手古墳群は、<sup>みずなしがわ うげん</sup>水無川右岸に広がる35基からなる県内でも最大規模と言われている古墳群です。

この古墳群は、6世紀末から8世紀初頭に造られた<sup>えんぼん</sup>円墳で構成されており、<sup>よこあなしきせきしつ</sup>横穴式石室といわれる<sup>まいそうしせつ</sup>埋葬施設を備え、<sup>そうしよくひん</sup>装飾品や土器などが<sup>ふくそう</sup>副葬されていました。



発掘調査当時(昭和50年)の桜土手古墳群

秦野市では、この貴重な文化財を広く紹介するため、平成2年(1990年)11月に桜土手古墳公園と展示館を整備しました。

公園内には6基の<sup>ぼぜん こふん</sup>保存古墳と、桜土手古墳群の中で最大規模を誇った1号墳をモデルにして新たに造った<sup>ふくげんこふん</sup>復原古墳があります。6基の保存古墳は、隣接する工場の敷地に保存されている6基の古墳とともに、昭和47年(1972年)12月に秦野市の史跡に指定しました。

### 桜土手古墳公園案内図



展示館キャラクター  
さくらこらび

#### <秦野市立桜土手古墳展示館>

桜土手古墳群の保存をはじめ、文化財資料などの収集・保管・研究を行い、その成果を公開する博物館です。展示のほかに考古・歴史・民俗に関する講演会なども開催しています。

○開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)

○休館日 月曜、祝日の翌日(土曜・日曜・祝日と重複するときは)

桜土手古墳の見取り図拡大版/31号墳→32号墳→復元古墳→26号墳→28号墳→29号墳→30号墳と廻ってみよう



桜土手古墳公園全景/手前はモニュメント広場



東側から見た31号墳/円墳



保存古墳

## 31号墳

径11.2m・高さ0.8mの円墳で、その周りを幅約1.1mの周溝がめぐっています。



桜土手31号墳(整備前)

埋葬の時に遺体といっしょに納める品を副葬品といいます。副葬品には、装身具・武器・馬具・土器など、その種類は多く、一つの時代の技術の水準を知るには最も有効な資料といえるでしょう。



1号墳 石室内玉類出土状況



1号墳 石室内類器・刀子出土状況

北東側から見たところ



南東側から見たところ



東側から見た32号墳/円墳



保存古墳

## 32号墳

径14.5m・高さ2mの円墳で、その周りを幅約2mの周溝がめぐっています。



桜上手32号墳（整備前）

古墳の周りにめぐっている周溝は、古墳の立派な様子を強調するとともに古墳の境界を示しています。

葺石は、古墳の斜面に石を敷き並べたもので、古墳を飾るとともに、盛った土が流れるのを防ぐ役目もしています。



1号墳 発掘後の状況

北側から見たところ



南側から見たところ/左奥は31号墳



これは北側から見た復元古墳(1号墳/円墳/群中一番大きな古墳がモデル)



## 古墳の復原

古墳公園では、造られた当時の古墳の姿や古墳の構造を見ていただくために、桜土手1号墳をモデルにして、古墳を復原してみました。復原に使用した石は、桜土手古墳に使われていた石です。

復原には、大型の機械などを使いましたが、機械のない時代の古墳の造営は、大変だったことでしょう。



桜土手1号墳復原平面図



古墳の造営（想像図）



古墳の復原工事



東側から見たところ



## 復原古墳

この古墳は、昭和49年（1974）に発掘調査した1号墳を、図面や写真をもとに復原したものです。径28m・高さ5.6mで、幅約5mの周溝をめぐらしており、桜土手古墳群の中で一番大きなものでした。

1号墳は、桜土手古墳群の一番南に、他の古墳とは少し離れて造られていました。



桜土手1号墳

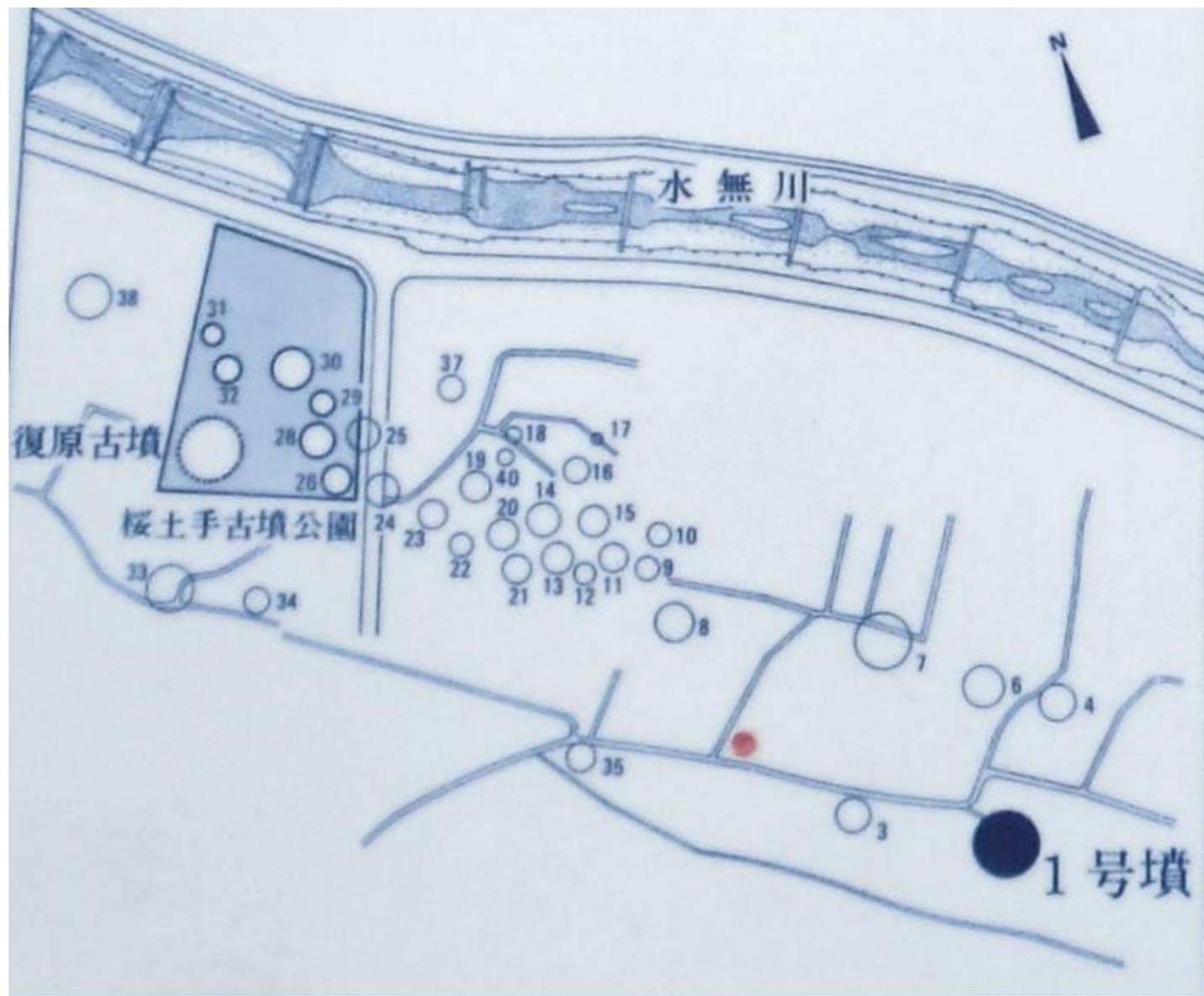


位置図



調査前全景





南側から見たところ/石室が復元されている





## 横穴式石室

古墳で最も重要な、遺体を入れる場所です。入口は石を積んで塞がれますが、それを開けることによって、何度も追葬することができます。

1号墳石室の石積みは、上にいくに従って少々狭くなり、その上に天井石を8個乗せています。その上を小石や粘土でおおい、石室内に雨水が入らないようにしています。



粘土の被覆層



小石の被覆層



天井石の上面

石室からは、壺などの須恵器や勾玉などの玉類、その他鉄製品などが出土しました。



1号墳出土遺物



石室

石室内部を試みよう





石室内から入口方向を見たところ



石室の左手を見たところ/説明坂が見える





## 桜土手1号墳 墳丘のようす

1号墳は墳丘の中程に平らな面のある二段構造です。遠くから見るとお供え餅のような形をしています。そして斜面には、葺石といって河原石が葺かれていました。古墳時代の人が見た古墳は、このような形だったのでしょう。



桜土手1号墳

1号墳の墳丘上から大きな須恵器が発見されています。これには叩き割ったと思われる跡があり、埋葬儀式の時何らかの理由で、割ったものではないかと思われます。



墳丘から発見された大甕



その左手にも説明坂がある



石室を取り巻くように石垣状の石組みがあったという

## 桜土手 1号墳 墳丘内部のようす

石室に積んだ石をしっかりと固定するために、石と土の間に砂利などを詰め込みます。これを裏込めと呼びます。



### 石垣状の石組

1号墳の墳丘の中には、石室を取り巻くように石垣状の石組みがありました。この石垣はとても立派に造られていますが、古墳が完成した時には墳丘の中に隠れてしまい、見ることができません。同じものが7号墳にもありますが、これは他の地域の古墳には見られない特異な構造です。



裏込め



石垣状の石組

さて、これは北側から見た26号墳/円墳



保存古墳

## 26号墳

径14.5m・高さ2.1mの円墳で、その周りを幅約1.8mの周溝がめぐっています。



桜土手26号墳（整備前）

古墳の発掘調査は、周溝、葺石などの外側の調査をし、その後、石室などの内側の調査をします。

この調査で大切な事は、出土した遺物（副葬品など）や築造方法などを正確に記録し、残す事です。



桜土手古墳群全景\*（北西より）

西側から見たところ



これは東側から見た28号墳/円墳



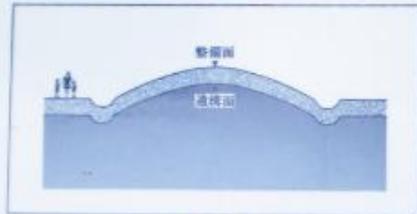
保存古墳

## 28号墳

径15.6m・高さ1.8mの円墳で、その周りを幅約1.7mの周溝がめぐっています。



古墳公園内の保存古墳については、保護のための盛土をし、ほぼ元の大きさに復原しています。



保存古墳概念図

古墳などの遺跡の大部分は地下に埋まっています。それを掘り出して調べる事を発掘調査といいます。

桜土手古墳群も発掘前は草木におおわれた小山でしたが、調査後、古墳群の様子が明らかになりました。



発掘前の桜土手古墳群の状況

これは南側から見た29号墳/円墳



東側から見たところ



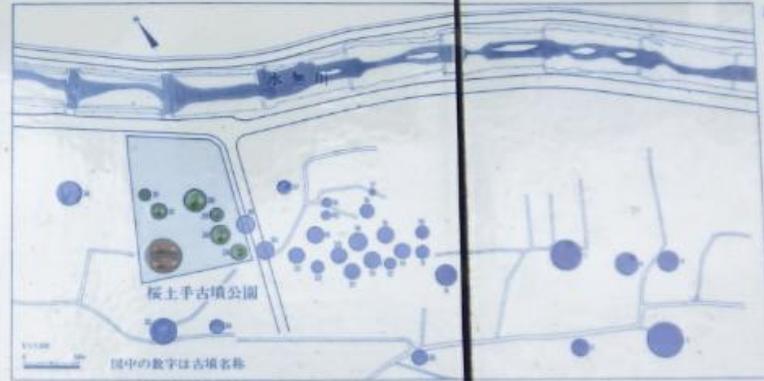
保存古墳

## 29号墳

径15.6m・高さ1.4mの円墳で、その周りを幅約1.6mの周溝がめぐっています。周溝調査の時、葺石の一部と思われるものが発見されました。



板土手29号墳（整備前）



板土手古墳群  
分布位置図



北側から見たところ



さて、これは北東側から見た30号墳/円墳



## 桜土手古墳群 保存古墳

桜土手古墳群の古墳の数は、第一次・第二次にわたる発掘調査の結果35基であることがわかりました。

古墳は現在、古墳公園内に6基、日産車体内に5基、島津製作所内に1基、合計12基保存されています。

保存古墳

### 30号墳

径22.8m・高さ2.5mの円墳で、その周りを幅約1.7mの周溝がめぐっています。



桜土手30号墳(整備前)

南東側から見たところ



国政側から見たところ



さて、これは館内にある展示物



## — 神奈川県指定史跡二子塚古墳 —

下大槻に所在する二子塚古墳は、市内唯一の前方後円墳で、墳丘の全長はおよそ46mにおよびます。

近年行われた発掘調査では、横穴式石室が確認されたほか、須恵器や玉類、金属製品などの遺物が見つかっています。

その中でも、横穴式石室の床面から発見された銀装圭頭大刀は、銀装大刀として、神奈川県内ではじめてとなる全形の揃った貴重な出土例で、現在は秦野市の重要文化財として指定されています。

このように出土例の少ない大刀が石室内から発見されていることから、二子塚古墳に葬られた人物が当時の中央政権とつながりをもっていたことが推察されます。



### 古墳時代の薬野

古墳時代は、畿内を中心に、古墳が立てられ、農耕が盛んに行われていた。この時代、薬野には古墳が建てられ、農耕が盛んに行われていた。

古墳時代は、畿内を中心に、古墳が立てられ、農耕が盛んに行われていた。この時代、薬野には古墳が建てられ、農耕が盛んに行われていた。

古墳時代は、畿内を中心に、古墳が立てられ、農耕が盛んに行われていた。この時代、薬野には古墳が建てられ、農耕が盛んに行われていた。

### 平安時代の薬野

平安時代は、畿内を中心に、古墳が建てられ、農耕が盛んに行われていた。この時代、薬野には古墳が建てられ、農耕が盛んに行われていた。



— 大塚に見える薬野とその周囲 —

### 奈良時代の薬野

奈良時代は、畿内を中心に、古墳が建てられ、農耕が盛んに行われていた。この時代、薬野には古墳が建てられ、農耕が盛んに行われていた。



大塚



こく ぐん こう  
国・郡・郷

---

710年、現在の奈良県に「平城京」がつけられました。  
平城京を中心に政治がおこなわれた時代を「奈良時代」とい  
います。この時代、「律令」とよばれる法律で全国の政治  
が整えられました。地方は「国」・「郡」・「郷（里）」と  
いう単位で政治が行なわれました。「国」は現在の県、  
「郷（里）」は現在の市町村、「郡」はその中間の範囲に  
あたります。橿原市周辺は「余綾郡幅多郷」とよばれる地  
域であり、当時から「はた」とよばれていたことがわかり  
ます。

江戸時代の楽野

江戸時代は、楽野の歴史の中で、最も重要な時代です。この時代には、楽野の文化が盛栄し、多くの名産品が生まれました。また、楽野の産業も大きく発展しました。

楽野の歴史は、古くから続いています。この時代には、楽野の文化が盛栄し、多くの名産品が生まれました。また、楽野の産業も大きく発展しました。



江戸時代の楽野

江戸時代は、楽野の歴史の中で、最も重要な時代です。この時代には、楽野の文化が盛栄し、多くの名産品が生まれました。また、楽野の産業も大きく発展しました。

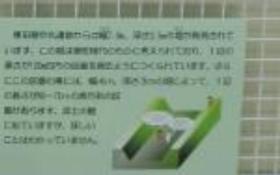
楽野の歴史は、古くから続いています。この時代には、楽野の文化が盛栄し、多くの名産品が生まれました。また、楽野の産業も大きく発展しました。



鎌倉・室町時代の楽野

鎌倉・室町時代は、楽野の歴史の中で、重要な時代です。この時代には、楽野の文化が盛栄し、多くの名産品が生まれました。また、楽野の産業も大きく発展しました。

楽野の歴史は、古くから続いています。この時代には、楽野の文化が盛栄し、多くの名産品が生まれました。また、楽野の産業も大きく発展しました。



平安時代の楽野

平安時代は、楽野の歴史の中で、重要な時代です。この時代には、楽野の文化が盛栄し、多くの名産品が生まれました。また、楽野の産業も大きく発展しました。



文獻に見える楽野とその地理



品名	数量	備考
...	...	...

今から900年くらい前、秦野は「波多野庄」と呼ばれていました。やがて「波多野」を名乗る一族が領主となります。彼らが暮らしていた地が、東田原の東田原中丸遺跡だと考えられています。また、波多野一族は、源氏の家来として岩手県や京都府で活躍します。

鎌倉時代になると、一族は御家人として幕府の役人になります。また、一部の人たちは、西日本の各地に領地を与えられ地頭として現地に移り住みました。

平成12(2000)年、東田原中丸遺跡から「波多野一族」の館の跡が発見されました。この館がつくられた時代は今から800年くらい前の鎌倉時代になります。一部を調査しただけなので、詳しくはわかりませんが、堀に囲まれた館ではありませんでした。現在までに4回にわたる発掘調査がおこなわれ、徐々に遺跡の内容が明らかになってきています。



館の推定図

東田原中丸遺跡からは幅<sup>はば</sup>7.0m、深さ<sup>はさ</sup>3.5mの堀が発見されています。この堀は室町時代のものと考えられており、1辺の長さが120m四方の区画を囲むようにつくられています。さらにこの区画の南には、幅4m、深さ3mの堀によって、1辺の長さが55~75mの長方形の区画があります。武士の館に似ていますが、詳しいことはわかっていません。





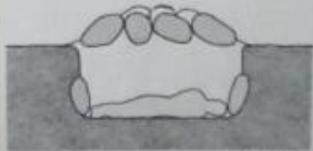
ひらさわどうめい いせしやつど やまい ぜん き つばけた と き  
平沢同明遺跡出土の弥生前期壺形土器

この壺形土器は、北部九州地方で成立した弥生時代  
前期の遠賀川式土器の流れをひくもので、弥生時代前  
期後半に伊勢湾沿岸地域で作られ、秦野市域に運びこ  
まれたと考えられています。

弥生時代前期後半は、神奈川県域へ米づくり（農耕）  
をともなう弥生文化が伝わった時期であるため、この  
壺形土器は、秦野市域に弥生文化を伝えた象徴的な資  
料であると考えられています。

# 配石墓群(寺山遺跡)

秦野市の東地区に、寺山遺跡という縄文時代中期から後期の遺跡があります。平成2年(1990)の発掘調査で、住居址やその他の遺構と共に、上に配石を伴う土壇墓群が20数基発見されました。その内6基には小型の土器が副葬されていました。この時期の人たちは、すでに墓地という考え方をもっていたことがわかります。



配石墓断面図

参考ホームページ

[http://www.town.oiso.kanagawa.jp/isotabi/taiken\\_asobu/powerspot/takakukomayama.html](http://www.town.oiso.kanagawa.jp/isotabi/taiken_asobu/powerspot/takakukomayama.html)

[http://www.gregorius.jp/photogallery/page\\_b48.html](http://www.gregorius.jp/photogallery/page_b48.html)

高来神社



地図 航空写真

Google 吉田邸

地図データ ©2016 ZENRIN 利用規約

秦野市立桜土手古墳展示館

